

淡水河マングローブ林(紅樹林自然保護區)觀察レポート

技術士(衛生工学部門、生物工学部門)

本 堀 雷 太

●紅樹林自然保護區とは？

台湾北部を流れる大河「淡水河」の河口部には、台湾最大級のマングローブ原生林が広がっています。このマングローブ群生地は76haもの広さに及び「紅樹林自然保護區」として保全されています。

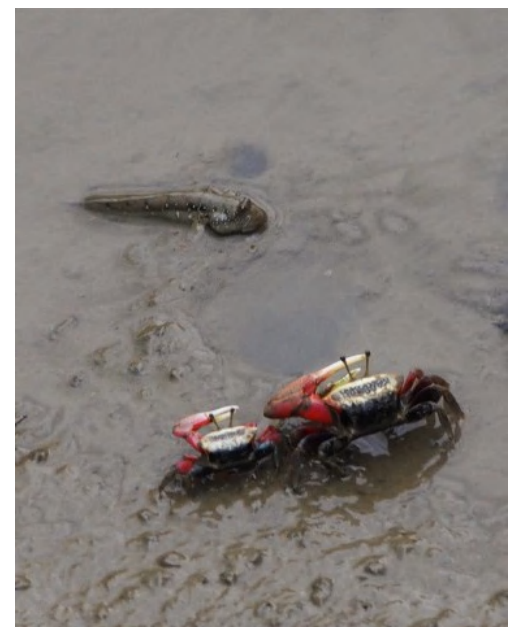
この紅樹林自然保護區では、潮間帯に生息するマングローブ樹種「メヒルギ」を中心に豊かな森が形成されています。メヒルギの根は川床の地下へ張り巡らされているため、土壌を保持したり、河岸を侵食や高潮などから守ったりしています。また葉や枝は川へ落ちてエビやカニなどの餌となりますし、花にはハチやチョウなど様々な昆虫が採蜜などに集まってきます。さらにこれらの小動物を餌とする魚類や鳥類も集まって来る訳で、マングローブ林は非常に豊かで濃密な生態系を構築しています。

マングローブ林というと何だかとんでもない秘境にあると思われそうですが、実はこの紅樹林自然保護區的すぐ横を都市鉄道(台北捷運、通称 MRT)の淡水線が通っており、台北駅から40分程で来る事が出来ます。駅の名前も、ズバリ「紅樹林(中国語でマングローブ林という意味)」です。

駅の2階には、「紅樹林生態展示館」が整備されており、マングローブ林について分かり易く学ぶ事が出来ます。駅から歩いて1分ほどで、「紅樹林生態歩道」という觀察用の歩道も整備されており、間近にマングローブ原生林を觀察する事が出来ます。ただし、この歩道ではヘビや野犬によく出くわすので要注意です。

なお、この歩道を下流に向かいますと“東洋のベニス”と例えられる「淡水老街」へ行く事が出来ます(駅一つ分歩くのですが…)。いずれにせよ、マングローブ觀察の後に淡水に立ち寄り、名物の「阿給」や「魚丸湯」を食べて、デザートに摩天楼ソフトクリームを食べつつ淡水河の彼方に沈む美しい夕陽を眺め、お土産に「鐵蛋」を買って帰るというのも“ある意味”で台湾らしい觀光コースだと思います。

皆様も台北へ行く機会がありましたら、ちょっと足を延ばしてみたいはいかがでしょうか？



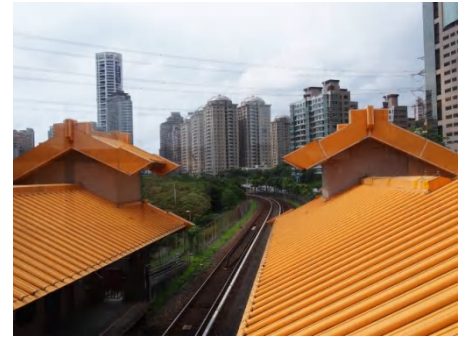
●マングローブ林の様子



MRT 紅樹林駅の改札



格子窓の向こうはマングローブ林



駅を出るとすぐにマングローブ林



駅のすぐ横がマングローブ林(緑色部分)



紅樹林自然保護区の案内地図



メヒルギを模したマスコットキャラクター



観察歩道の横を MRT が走っています



観察歩道の横を走る MRT 淡水線の車両



観察歩道の横に広がるマングローブ林



観察用のデッキも整備されています



観察用デッキから見たメヒルギの幼木



土壌流出防止のため、金網が張られています



マングローブ林内部の観察歩道



マングローブ林から見た高層ビルや淡水線



マングローブ林から見た高層ビル群



マングロープの彼方に見える観音山



マングロープ林内に流れる大きな水路



大きな水路に流れ込む小さな水路



マングロープ林内に流れる細流①



マングロープ林内に流れる細流②



メヒルギの濃密な群落



マングロープ林の下部①



マングロープ林の下部②



マングロープ林内の住宅

●マングロープ林の生き物たち

①メヒルギ(*Kandelia obovata*)



メヒルギの群落



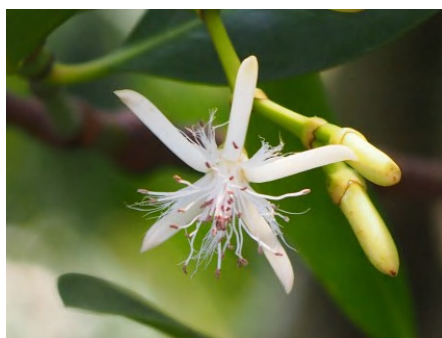
メヒルギ



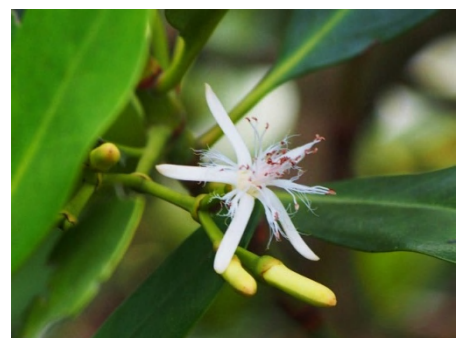
メヒルギの若木



メヒルギの葉と花



メヒルギの花①



メヒルギの花②



トウヨウミツバチによるメヒルギの受粉①



トウヨウミツバチによるメヒルギの受粉②



トウヨウミツバチによるメヒルギの受粉③



メヒルギの根①



メヒルギの板根(呼吸根)①



メヒルギの板根(呼吸根)②



落下した胎生種子(矢印で表示)



定着して成長する胎生種子①



定着して成長する胎生種子②



幼木



群生する幼木



成長する幼木の群集

②シオマネキ(写真は *Uca arcuata* ですが、この場所にはハクセンシオマネキ(*Uca lactea*)なども生息しているそうです。)



オス(鉗脚が右)



オス(鉗脚が左)



メス(鉗脚が小さい)



シオマネキの縄張り争い①



シオマネキの縄張り争い②



シオマネキの縄張り争い③



求愛行動(ウェーピング)の様子①



求愛行動(ウェーピング)の様子②



ムツゴロウとシオマネキ(縄張り争いします)

③台湾アシハラガニ (*Helice formosensis*)



肉厚の鋏脚が特徴的

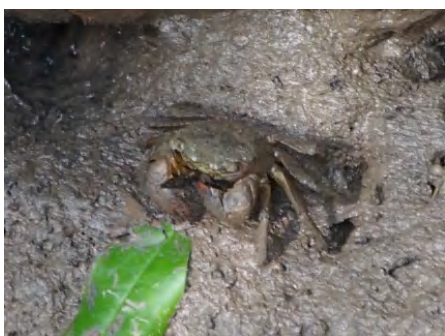


群れを形成する事が多い様です



シオマネキと同じ様な場所に住んでいます

④クロベンケイガニ (*Chiromantes dehaani*)



メヒルギの落ち葉を食べています



日本でも普通に見られるカニです



シオマネキと縄張り争いします

⑤コビアカベンケイガニ (*Parasesarma acis*)



鋏脚の先のみが赤いのが特徴です



局所的に分布している様でした



トビハゼとコビアカベンケイガニ

⑥ムツゴロウ (*Boleophthalmus pectinirostris*)



軟泥の干潟の上を上手く這いまわります



泳ぐのも上手です



眼だけを水面から出して周辺を伺っています



かなり多くの個体を観察する事が出来ました



縄張りを守るため侵入者を威嚇します



鰓を広げて威嚇します



威嚇されて追い払われた個体



泥質の場所で餌の珪藻を捕食します



餌場が競合するカニとのにらみ合い



口の中と皮膚に溜めた水で呼吸を行います



珪藻を捕食する様子①



珪藻を捕食する様子②

⑦トビハゼ (*Periophthalmus modestus*)



トビハゼは皮膚呼吸が可能です

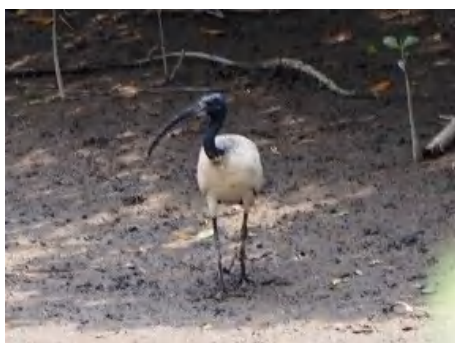


ムツゴロウとは異なり、食性は肉食です



落ち葉に乗るトビハゼ

⑧クロトキ (*Threskiornis melanocephalus*)



成鳥(頭部に羽毛が無く、黒い皮膚が露出)



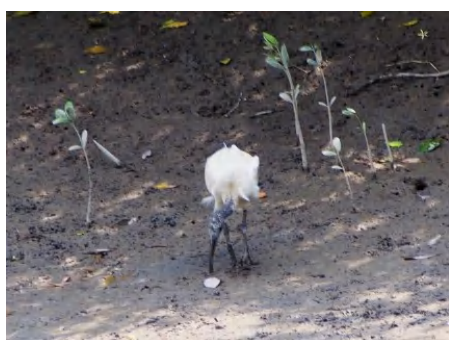
若鳥(頭部に灰黒色の羽毛が生えている)



餌を探す様子



餌を啄むクロトキ①



餌を啄むクロトキ②



クロトキの群れ

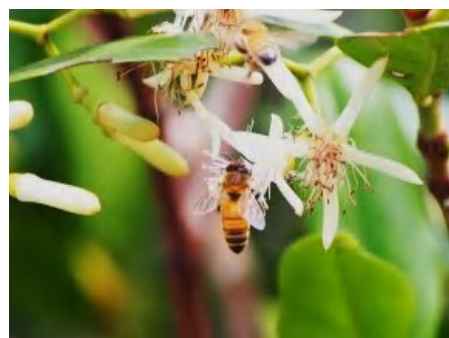
⑨トウヨウミツバチ (*Apis cerana*)



メヒルギの花で採蜜するトウヨウミツバチ①



メヒルギの花で採蜜するトウヨウミツバチ②



メヒルギの花で採蜜するトウヨウミツバチ③

⑩ハキリバチの仲間



キヌゲハキリバチの仲間か？

⑪カメムシの仲間



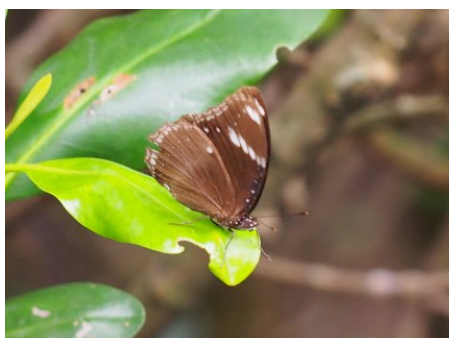
なんか変わった模様ですね

⑫ドクガの仲間

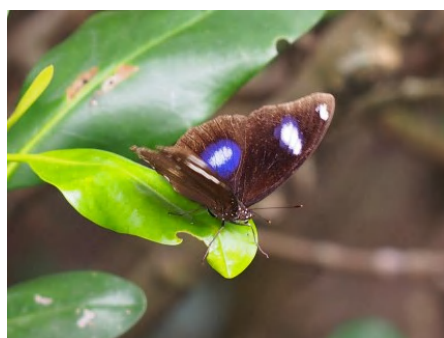


寄生バチの卵付きです

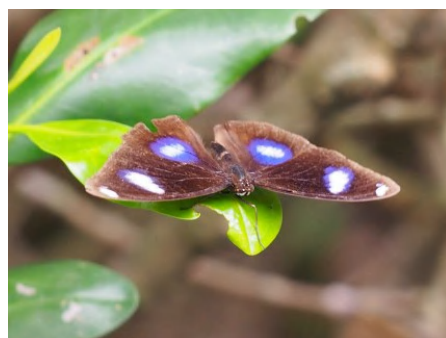
⑬リュウキュウムラサキ (*Hypolimnas bolina*)



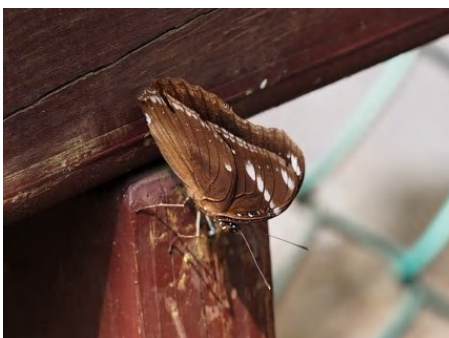
オスの個体です



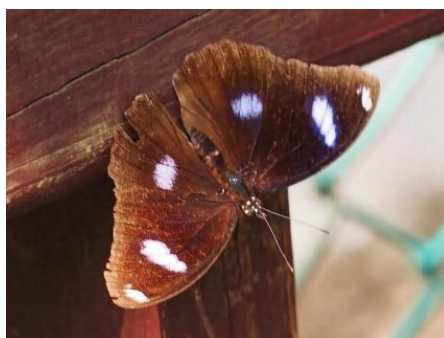
羽を広げると…



美しい紫紋が現れます



タテハチョウの仲間でも大型になります



羽を広げるとかなり迫力があります



タテハチョウの仲間なので、4本脚に見えます